

ひょうごJCC

兵庫県協同組合連絡協議会機関誌

coop

98

2023. 4. 28

兵庫JCCは兵庫県内の生協、JA（農協）、JF（漁協）、JForest（森林組合）の協同組合組織相互の連絡提携、共通課題の実行および全国、海外の協同組合運動との連携を図ることを目的に、1984年7月7日に設立されました。

「人とひとの心がふれあう、暮らし良い兵庫を目指して一協同が息づくまちづくり」を基本理念として、共通行動目標の実践に取り組んでいます。

1. 協同組合活動スナップ 1
2. 兵庫JCCが協同組合研究・交流会を開催
～協同組合間連携の更なる促進に向けて～ 2
3. 兵庫JCC2023年度活動計画 3
4. 全国の協同組合間の連携事例を学ぶ
～第5回都道府県協同組合連携組織 全国交流会議～ … 4

Contents

5. 困窮する学生を支援、大学生協に県産米・水産物など
食材を提供 5
6. 今協同組合では一各協同組合からの報告一
JA（農協）／生協 6
JForest（森林組合）／JF（漁協） 7
7. 協同組合運動に生きる
ひょうご森林林業協同組合連合会 業務課 主任 河合 貴則 8

● ● ● 協同組合活動スナップ ● ● ●

兵庫県生協大会を開く



生協

10月27日「2022年度兵庫県生協大会」を開催。会員生協の役員・職員の中から推薦された生協功労者に対し「兵庫県知事感謝」「兵庫県生活協同組合連合会会長表彰」が贈られました。

JA営農指導員発表大会・担い手活動成果発表会 田中氏(JA兵庫六甲)が最優秀



JA（農協）

JA兵庫中央会とJA全農兵庫は2月15日、兵庫県農業会館で令和4年度JA営農指導員発表大会・担い手活動成果発表会を開催しました。3年ぶりの実開催で、8JAS人の営農指導員が日頃の活動成果を発表し、JA兵庫六甲の田中まや氏が、最優秀の兵庫県知事賞に輝きました。発表では、「未来へつなぐ産地のハトン」と題し、三田ピーマンを通じて、「まもる・つなぐ」をキーワードに、資材価格高騰に負けない、次世代まで続く産地と農業経営を実現するべく、ベテランの営農技術継承の取り組み等が紹介されました。

イカナゴ漁の解禁



JF（漁協）

ひょうごの春の風物詩、イカナゴ漁が3月4日に解禁となり、3月17日で終漁となりました。兵庫県イカナゴ謝恩実行委員会のInstagramアカウント(@hyogo_ikanago)では、「イカナゴのくぎ煮の作り方」「イカナゴのくぎ煮のアレンジレシピ」について、インスタライブの配信を行いました。

ひょうご森林林業協同組合連合会が発足



JForest（森林組合）

2023年1月1日に兵庫県森林組合連合会の主要な事業がひょうご森林林業協同組合連合会へ事業譲渡されました。(P7に関連記事)

●編集発行

兵庫県協同組合連絡協議会(兵庫JCC)
Hyogo-ken Joint Committee of Co-operatives
生協・JA(農協)・JF(漁協)・JForest(森林組合)

●兵庫JCC事務局

兵庫県生活協同組合連合会 TEL(078) 391-8634
兵庫県農業協同組合中央会 TEL(0794) 87-0062
兵庫県漁業協同組合連合会 TEL(078) 940-8013
兵庫県森林組合連合会 TEL(078) 599-7461

兵庫JCCが協同組合研究・交流会を開催 ～協同組合間連携の更なる促進に向けて～

兵庫 JCC では、異なる協同組合組織が互いの事業・活動を理解し、今後の協同組合間連携の更なる促進を図ることを目的に、兵庫 JCC 協同組合研究・交流会を 2008 年から毎年開催しています。

2022 年度は、J A について理解を深めてもらうため、丹波地域の農業をテーマに 11 月 29 日に開催し、各組織から組合員・職員計 28 人が参加しました。J A 丹波ひかみ（丹波市）・J A 丹波ささやま（丹波篠山市）をバスで巡り、組合員農家や J A の取り組みについて学びながら、組織

間の交流を深めました。

J A 丹波ひかみでは、営農経済部の岸本芳樹次長が、J A と J A 出資農業法人「株式会社アグリサポートたんば」が行っている農家支援や地域と連携した特産品の PR の取り組みのほか、新たな産地モデルの形成に向けたイチゴ栽培施設への研修生の受け入れなどを紹介しました。研修生受け入れの取り組みが独立就農に繋がったという成果を聞いた参加者からは「J A が地域に貢献する素晴らしい取り組みを行っていることを知ることができた」との意見があがっていました。



イチゴ栽培施設で説明を受ける参加者



J A 丹波ささやまの組合員農家からの説明を受ける参加者

兵庫JCC2023年度活動計画

目的：協同組合の原点学習や協同組合間協同の推進に向け、取り組みをすすめる。

| 企画名 | 内 容 | 規 模 | 実施日 |
|---------------------------------|--|-------|----------------------|
| 第 101 回 国際協同組合デー・ 兵庫県記念大会 | テーマ：「協同の力で未来を拓く」 講 演：「みんなが幸せに生きるために ～たのしく健康に！食の大切さのおはなし～」 講 師：枝元 なほみ 氏 | 約300人 | 7月7日(金) |
| 虹の仲間づくりカレッジ | 目 的：県内協同組合の職員の交流を通じた協同組合間 連携の実現 テーマ：SDGs の目標を踏まえ『生産』『環境』『地域の コミュニティ』などが抱える課題を「協同組合 としていかに解決するか」という視点で考え、 実践につなげる。 | 約20人 | 8月・10月・2月 (全3回)予定 |
| 第 6 回 都道府県協同組合連携組織 全国交流会議 | 全国の協同組合の仲間が、連携事例の共有やこれからのあ り方について交流を深める。 | — | 未定 |
| 協同組合研究・交流会 | 生産・流通・消費の相互理解を深めるため、生協、農協、 漁協、森林組合の各団体が、互いの事業と活動を学習し、 今後のさらなる協同・連携を促進する。 | 約40人 | 未定 |
| 大学生の食の支援 | 大学生協と連携して県産の食材を使った、学内食堂で昼食 を提供する。協同組合間連携による助け合いの実践と SDGs 達成につながるエシカルな消費を啓発することを通 して、学生の協同組合への理解と賛同を高める。 | — | 11月初旬 |
| 協同組合間連携セミナー | 役職員を対象としたセミナーを開催し、協同組合間連携の 必要性を理解し、関係強化を進める。協同組合のアイデン ティティ論議や他府県での連携事例の共有、協同組合と NPO 団体等との円卓会議を実施。 | 約40人 | 1月～3月 |
| ひょうごまるごと 健康チャレンジ 2023 | すべての人の共通課題である心と体の「健康づくり」を推 進する取り組みとして、認知度の向上や参加者の拡大に取り 組む。 | — | 7月～11月 |
| PHD運動への協力 | 協同組合のなかで PHD 協会（※）が進める PHD 運動を紹介 する取り組みを進める。 | — | — |
| 虹の仲間づくりカレッジ 同窓会 | 兵庫 JCC 創立 40 周年企画。記念講演、卒業生同士の交流 の場を作る、文集作成など計画。 | — | 2月 |
| 協同組合の源流を学ぶ | 兵庫 JCC 創立 40 周年企画。五館中継賀川豊彦セミナー(オ ンライン)。 | — | 5月～6月 |

(※) PHD 協会の概要

【設立の経緯】

1962 年からネパールを中心に約 20 年間海外で医療活動に従事してきた岩村昇医師が、自らの活動経緯と反省をふまえ、「物」「金」中心の一時的援助を越えた草の根レベルの人材交流・育成を提唱した PHD 運動を進める団体として 1981 年 6 月に設立。

【組織の目的】

1. アジア・南太平洋地域からの研修生の招聘、研修後のフォローアップを通して、草の根の人々による自立した村づくりと生活向上に協力すること。
2. 日本の人々もアジア、南太平洋地域の人々との交流を通して学び、そこから毎日の生活を問い直し、平和 (Peace) と健康 (Health) を担う人材を育成 (Human Development) し、「共に生きる」社会をめざすこと。

全国の協同組合間の連携事例を学ぶ ～第5回都道府県協同組合連携組織 全国交流会議～

全国交流会議は、都道府県の協同組合連絡協議会などの「地域の連携組織」が集まり、各地で行われている「協同組合間連携の事例」を学びあうとともに、「連携組織間の情報交換・交流」を目的とした会議です。一般社団法人 日本協同組合連携機構（JCA）が発足した2018年度より毎年開催され、今年度は2022年11月18日に全国から98人がオンラインで参加しました。

冒頭、比嘉政浩 JCA 代表理事専務が「協同組合が連携すれば、地域課題の解決にも貢献できる。実践されている方々からのご報告に感謝申し上げる」と挨拶され開会しました。

続いて行われた事例報告では、4つの地域の実務担当者が東京会場からそれぞれ取り組みを報告しました。今年は、SDGs プラットフォームや生物多様性農業への転換という規模の大きな取り組みから、地域の課題解決、生活支援という身近な取り組みまで幅広く事例が紹介されました。

事例報告の後、「協力関係を生み出すコーディネーション」と題する講義を実施。講師を務められた大阪の協同組合連携組織の構成メンバーでもある、大阪ボランティア協会の早瀬昇理事長は「互いに対等な立場で、互いのことを思いやりながら、共通の目標を見出した時、社会を変えるような大きな力『協力3.0』となる。今回報告された事例には、この『協力3.0』が発揮されているのではないかと述べられました。

閉会の挨拶で伊藤治郎 JCA 常務理事は、「大きな取り組みも小さな一歩から始まる。同じ協同組合でも文化の違いなどはあるが、異質な協同組合が共に学びながら、小さなことでもよいから一歩踏み出し行動することが大切である」と述べられました。

全国の先進的な連携事例を学ぶと同時に、今回の報告やその準備を通してあらためて協同組合間連携の歴史を認識し、つながりの深さを実感する機会にもなりました。



全国の協同組合関係者がオンラインで参加

< 4つの協同組合間連携事例 >

| | | |
|-----|-----------------------|---|
| 香川県 | かがわ協同組合連絡協議会のラウンドテーブル | 前年度に8つの地域課題を整理し、今年度は防災対策に取組み。学ぶべきこと等を徹底議論し、2022年11月に55人が参加して防災キャンプを実施。 |
| 北海道 | マイボトルエコアクション | コープさっぽろ・ホクレン・北海道漁連・北海道ろうきんを中心とする「マイボトルエコアクション」。2022年6月に実施した海岸清掃は約8,000人が参加する大規模な取り組みとなった。 |
| 新潟県 | 佐渡トキ応援お米プロジェクト | 生き物を育む農法（生物多様性農業）を進めるJA佐渡とコープデリ生活協同組合連合会との産直連携の取り組み。2010年からの寄付金累計は3,200万円を超える。 |
| 山梨県 | いいさよ～山梨 | JA、生協、ワーカーズコープが2019年12月に発足させたプラットフォーム。「農業軽作業支援」を中心とした生活の困りごとと解決を請け負う。 |

困窮する学生を支援、 大学生協に県産米・水産物など食材を提供

兵庫 JCC は兵庫県、一般社団法人ひょうご大学生支援機構とともに、コロナ禍で困窮する学生を支援するため、県内の9カ所の大学および高専生協を対象に、県内食材でつくる海鮮丼を提供しました。

2022年度が3年目となるこの取り組みでは、支援の量を昨年度の5,000食分から10,000食分に増やし、JAグループは県産の新米を1,340kg、JFグループはしらすや真鯛の切り身、唐揚げ用赤えいなど瀬戸内海で取れた魚を食材として提供、兵庫 JCC、生協とひょうご大学生支援機構は食材の購入費を支援しました。生協食堂で10月下旬から11月上旬までの丼メニューとして1食250円で提供されました。

兵庫 JCC の江見淳幹事は「2022年は食数を、2倍の10,000食分に増やし、より多くの学生に提供することで、県内産の食材を食べて生産を持続していこうという協同組合間連携の取り組みも伝えたいと考えています。経済的な支援だけでなく、未来につながるエシカル消費を考える機会にしてほしいと思います」と話しました。



食堂に掲示されたメニューと取り組みを周知するポスター



今回提供された丼メニュー

今 協同組合では —各協同組合からの報告—

JA(農協)から

J Aグループ兵庫のホームページを更新

J Aグループ兵庫では、兵庫県内の農業やJ A・連合会の取り組みを発信するために、4月1日からJ Aグループ兵庫のホームページをリニューアルしました。

県内J A・連合会の新着情報やSNSのリンクを掲載し、様々な情報を集約することで、このサイトを見ればJ Aグループ兵庫のことが全てわかるようになっています。また、スマートフォンでも使いやすく、見やすい仕様に変更しています。

その他、J Aグループ兵庫公式YouTubeチャンネル「兵庫の農業・農協発信ch」とJ A兵庫中央会公式Instagramアカウントでも兵庫県の農業や美味しい農畜産物の魅力、J Aの取り組みを発信していますので、チャンネル登録・フォローをよろしくお願ひします。



リニューアルしたサイトのトップページ

| J Aグループ兵庫 ホームページ | J Aグループ兵庫 公式 YouTube チャンネル | J A兵庫中央会 公式 Instagram |
|---------------------|-------------------------------|--------------------------|
| | | |

生協から

ピースアクション2022 第2弾 「歩いて学んで 戦跡ウォーク」を開催



自分達で考えたクイズを出す大学生。説明も完璧!

神戸空襲犠牲者のお名前を刻銘した『いのちと平和の碑』では、神戸平和マップをつくる会の小城智子さんからお話を聴きました。



県民会館では空襲のパネルや地図を展示

兵庫県生協連では、戦争の悲惨さを学び平和の大切さを考え確かめ合う場として「ピースアクション」の取り組みを行っています。2022年度の2回目、「歩いて学んで 戦跡ウォーク ～クイズを解きながら神戸の街に残る戦争遺跡をまわろう～」を11月6日に開催し、神戸空襲の戦跡7か所を巡りました。

まずグループに分かれ、大学生協の学生事務局と学生委員の先導で最初の目的地大倉山公園に向かいました。金属供出のために無くなった伊藤博文像の台座や、敵

の飛行機を撃ち落とすための高射砲陣地などの戦跡を巡り、神戸空襲犠牲者のお名前を刻銘した『いのちと平和の碑』では、神戸平和マップをつくる会の小城智子さんからお話を聴きました。

その後、焼夷弾の跡が残る八宮神社や日本基督教団神戸教会に向かい、兵庫県民会館では神戸空襲の地図やパネル展示から当時の様子を学びました。今回は、募集チラシ制作とクイズ考案、そして引率も大学生協の学生事務局と学生委員8人が関わり、当日はピースアクション実行委員と協働しながら参加した組合員と平和への想いを共感しあう時間を持つことができました。



募集チラシも大学生協の学生事務局と学生委員が制作

JForest(森林組合)から

新たな森林組合系統組織が発足

2022年10月、兵庫県内の各森林組合と兵庫県林業種苗協同組合を会員とした『ひょうご森林林業協同組合連合会』（略称：ひょうご森連）が発足しました。

主な事業内容は兵庫県森林組合連合会から継承した①販売事業（県産の丸太や木製品の販売）②購買事業（林業・農業用資材や苗木、登山用品等の販売）③森林整備事業（森林整備、森林調査など）の3つの事業です。

これらの事業の中でも③森林整備事業では、県内の森林を対象に幅広い事業を行っており、会員からの事業発注や公共事業の入札により、山林の伐採や管理業務、測量設計、植生調査を行っています。特に、ひょうご森連では、ドローンやGIS（Geographic Information System：地理情報システム）といったICTを活用した先進的な森林調査を得意としています。ドローン空中写真や航空レーザー測量の結果を活用・解析することで、精度の高い地形情報や森林資源情報を得て、森林調査に活かします。これは、従来の森林調査内容を充実させるだけでなく、地籍調査で利用（前号で紹介）でき、さらには、2020年10月に政府が宣言した『2050年までに温室効果ガスの排出を全体としてゼロにする＝カーボンニュートラル』の達成のためのキーになるであろう、J-クレジット制度*において、その登録やモニタリングでも有利になります。



以上のとおり、ひょうご森連では、会員サービスの充実とともに兵庫県森林組合連合会で進めていた事業をさらにパワーアップさせた事業展開を目指します。

*J-クレジット制度…省エネルギー機器や再生可能エネルギーの導入や森林経営などの取組による、CO₂などの温室効果ガスの排出削減量や吸収量を「カーボン・クレジット」として国が認証する制度。

新団体の概要

| 項目 | 内容 |
|-----|------------------|
| 名称 | ひょうご森林林業協同組合連合会 |
| 根拠法 | 中小企業等協同組合法 |
| 構成員 | 各森林組合および林業種苗協同組合 |
| 系統 | 全国森林組合連合会（准会員） |

JF(漁協)から

ひょうごの春告魚 イカナゴシーズン到来

今年のイカナゴ漁は3月4日に解禁となりましたが、次年以降の資源量を確保するため、早期に漁を打ち切ることを決め、3月17日で終漁となりました。

近年のイカナゴの不漁が続いている中、イカナゴを食べる機会が少なくなった若い世代に向けて、親しみやすいイカナゴを使ったアレンジレシピ「イカナゴのくぎ煮の豆腐ハンバーグ」や「イカナゴのあんかけうどん」などの撮影を行いました。撮影されたイカナゴレシピ動画は、YouTube アカウント（SEAT - CLUB シートクラブ）に掲載します。貴重なイカナゴをより美味しく、いつもと一味違ったイカナゴ料理を楽しんでいただけるレシピです。ぜひご覧ください。

漁業者で組織する「兵庫県イカナゴ謝恩実行委員会」と連携して行っている出前くぎ煮教室では、県内の23校の小中学校の家庭科の授業で、36講座開催しました。近年の不漁や新型コロナウイルス感染症の影響で中止していたため、出前くぎ煮教室の開催は4年ぶりとなり、子ども達もイカナゴのくぎ煮に大変興味深々の様子でした。

兵庫県の食文化を継承し、これからも春の味覚を楽しめるように、来年は豊漁に恵まれることを願うばかりです。



イカナゴのふりかけの材料



イカナゴレシピ動画撮影の様子



出前くぎ煮教室



教室で作ったイカナゴのくぎ煮

協同組合運動 に生きる

森林組合の二面性と今後



ひょうご森林林業協同組合連合会 業務課 主任 **河合 貴則**

「森林組合ってなに?」「聞いたことあるけどよく知らない」「行政なん?民間なん?会社?」

森林や林業のことをよく知らない地元の友人や知人に森林組合というキーワードを出すといつもこんなことを言われます。

【森林組合とは?】

森林組合は中小規模の森林所有者を組合員とした協同組合です。日本における森林の管理や整備は中小規模の森林面積では採算が不利である場合が多く、そのため森林組合は組合員から委託を受けて森林を団地・集約化することで効率の良い森林整備を行っています。森林整備以外にも組合員の森林から生産された丸太や椎茸、薪といった林産物の販売を組合員に代わって取りまとめを行っています。このしくみは「個々では弱い立場にある人々が共通の目的のために集まり、出資し合い組織する」協同組合の姿そのものだと考えます。

私は森林組合系統に2018年に入所し、これまで森林調査や木製品の販売、所有林の経営業務等に携わらせて頂きました。それ以前は消費生活協同組合（生協）で働いていました。そのため、冒頭のような森林組合員と森林組合の関係性は他協同組合と非常に通ずる部分だと考える一方で、森林組合の性格などは他の協同組合とは少し異なる部分もあり、そのギャップも感じるところです。



測量・設計・開設した林業用の道

【森林組合の二面性】

森林組合の成り立ちを紐解くと、戦前・戦中の森林

組合は森林法の中に規定された強制設立・強制加入の強制的に作られた“土地管理組合”のような組織から始まりました。そして、戦後、連合軍総司令部（GHQ）の勧告に沿って1951年に新たな森林法が制定され（1978年に森林組合法へ分離）、協同組合原則（任意設立、加入脱退の自由、議決権1人1票制、出資1人1口以上の自由など）が盛り込まれました。このような歴史的な背景から森林組合には『性格』『法律』『設立動機』においてそれぞれ二面性があります。

1つ目の『性格』については、前述のような背景により、地域に根差した組合員（会員）のための協同組合としての組織体制がある一方、行政の公的機関のような名残が未だに一部あることも事実です。

次に2つ目の『法律』について、森林組合法では、「この法律は、森林所有者の協同組織の発展を促進することにより、森林所有者の経済的社会的地位の向上並びに森林の保続培養及び森林生産力の増進を図り、もって国民経済の発展に資することを目的とする」（森林組合法 第一章「総則」第一条「目的」）とあります。つまり“森林所有者の社会的地位の向上”という“私的目的（対組合員）”がある一方で、“森林の保続培養と森林生産力の増進”という“公的目的（対社会）”があります。

最後に3つ目の『設立動機』ですが、森林組合は、森林所有者の経済的社会的地位向上を目的とした“個人”としての動機と森林の維持を目的とした“物”としての動機を持っています。

【森林組合系統としての今後】

以上のような二面性を理解した上で、森林組合系統として思うことは、協同組合連合会として協同組合の精神を職員の個々人が今まで以上に意識するとともに、常に会員視線を忘れずに、地域の森林や木材利活用などの諸課題の解決に向けて“今時のやり方”で一段と一生懸命に取り組んでいくことだと考えます。そのためには、自らのスキルアップはもちろん、地域の社会的な諸課題の解決に向けて事業を展開されている他の協同組合との連携（協同組合間連携）もより必要になってくるのではないかと思います。そして、今まで以上に地域で必要とされる森林林業のエキスパートを目指していきたいと考えます。